

情報可視化論

最終レポート

186X012X

崎山誠

私の可視化アプリケーションは図と表現を調節できるインターフェイスから成る.

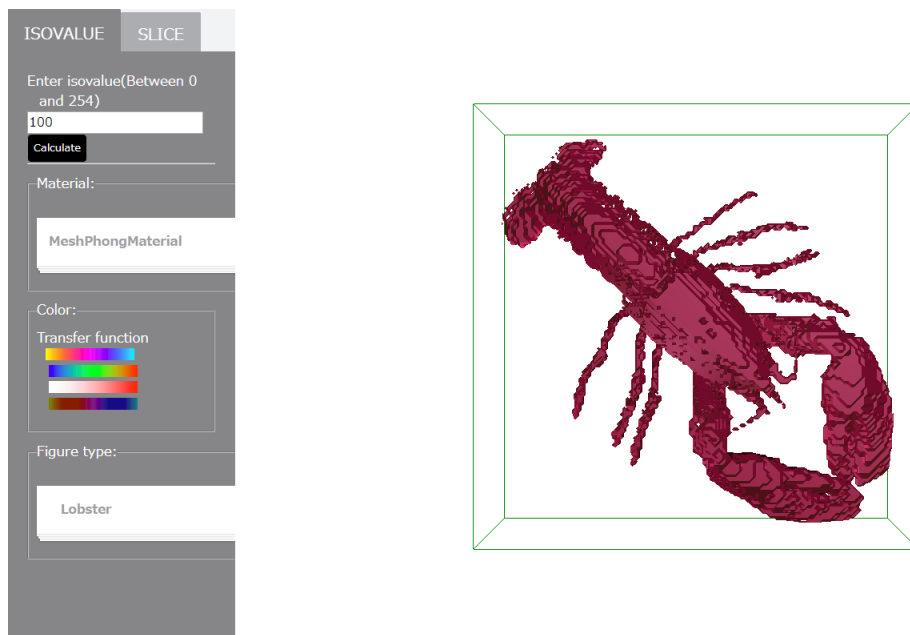


図 1. アプリケーション

インターフェイスは図 2 のようになる.

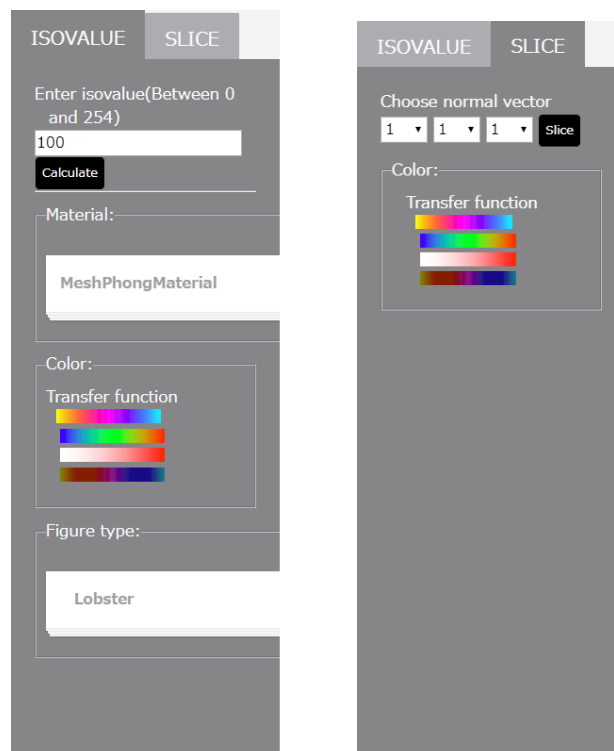


図 2. インターフェイス

インターフェイスは Isovalue calculation と Slice がある.

Isovalue calculation

0 から 254 の間の値で isovalue を入力し Calculate ボタンを押したら形が変わる. これはロブスターのみ適用できる. デフォルトは 100 である.

3 タイプの Material から選べる. BasicMterial, LambertMaterial, PhongMaterial から選べる. デフォルトは PhongMaterial である.

4 タイプのカラーマップがありクリックすることで色を変えることができる. この機能もロブスターのみ適用できる.

3 タイプの形を選べる. ロブスター, ペンタゴン, スターから選べる.

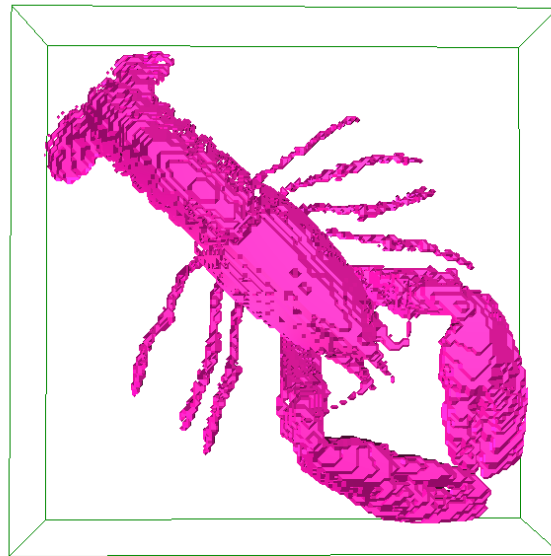


図 3. ロブスター

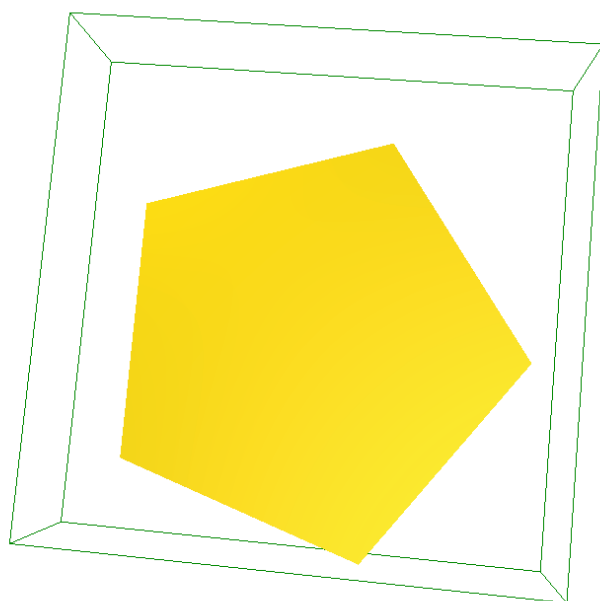


図 4. ペンタゴン

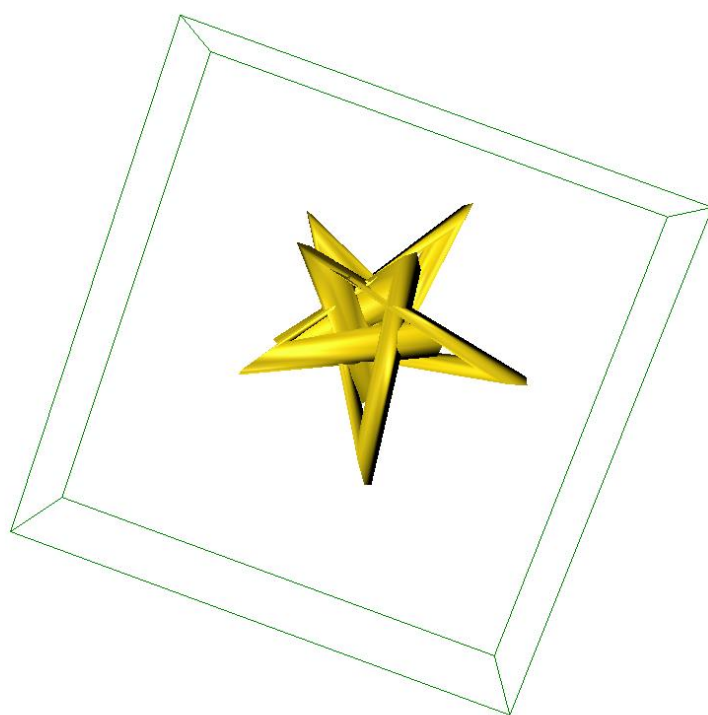


図 5. スター

Slice

ロブスターはカラーマップで色を変えることができるが、ペンタゴンとスターは色を選択して変える。

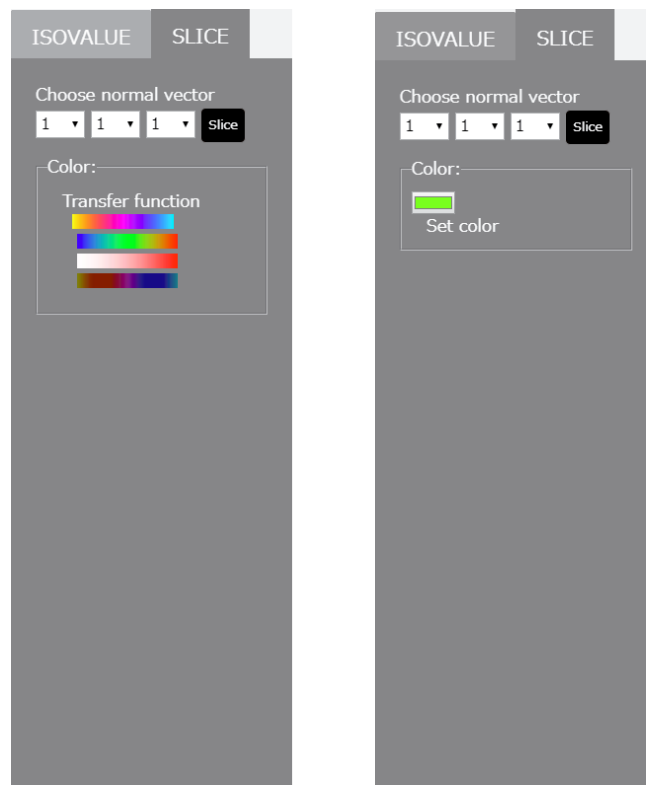


図 6. Slice

Vector の値を決め **Slice** ボタンを押す。しかし(0,0,0)は選べない。ロブスターは平面でスライスできる。スターは 3D でスライスできる。ペンタゴンはうまく機能しない。

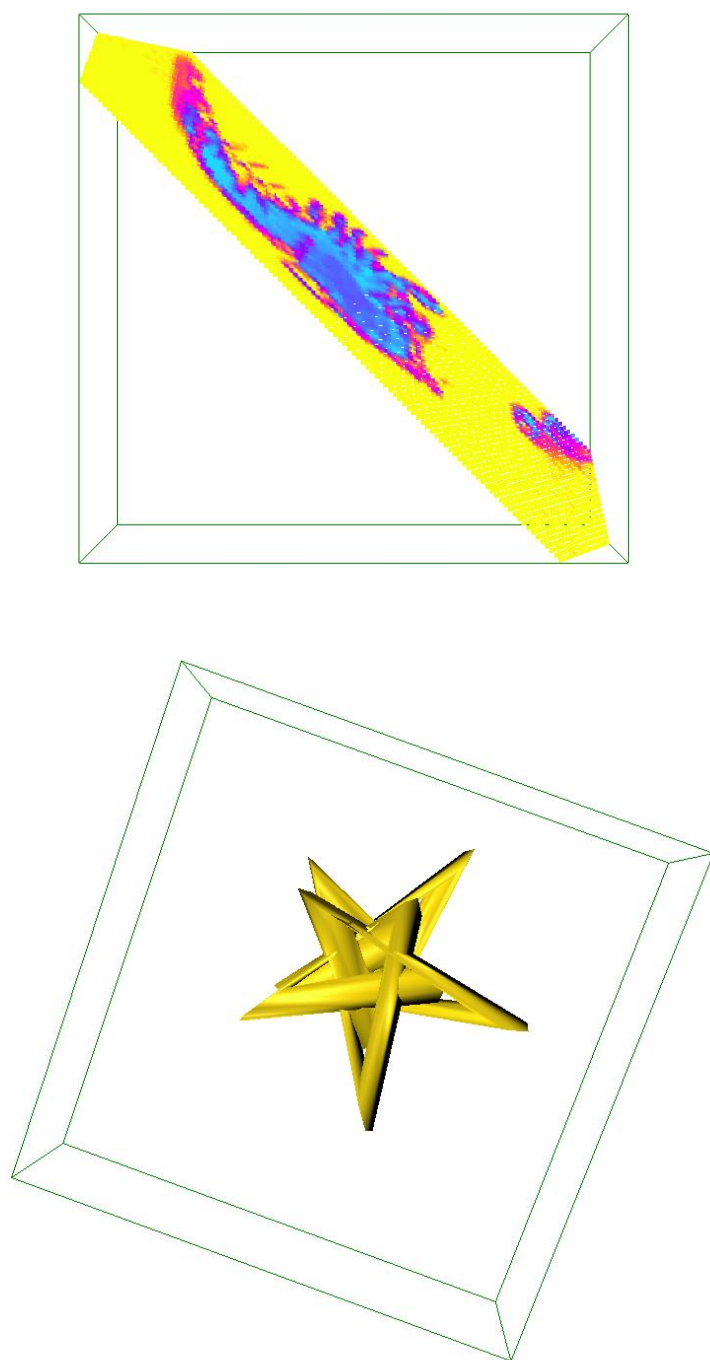


图 7. (1,1,1)Slice